

**Sojitz IR DAY 2021(2021/12/10 開催)**

**質疑応答内容**

**(化学本部)**

**【質問者 1】**

Q: P4 で今までの資産規模や ROA を説明頂いたが、トレード主体で、資産規模もほとんど変わらない時代が長く続いた。ただ、P8 の成長戦略では、22 年度、23 年度に利益が積み上がる計画となっている。22 年度にライフサイエンス事業が加わるが、具体的にどのような事業がライフサイエンス事業の収益拡大を支えていくのか、この領域における投資が始まっているという理解でいいか。また、2030 年に向けた投資の規模感等についても教えてほしい。

A: ライフサイエンス事業の中身について、検診事業等の具体的な話は、この場では申し上げられない。今期から来期にかけて、投資規模 100 億円強を考えている。これは既存事業の M & A となるので、そのまま収益を計上することになるが、そこから先の成長に注力して取り組んでいく。また、2030 年にかけてライフサイエンス事業で伸ばしていくところは、先ほど申し上げた機能性表示食品が挙げられる。川下までの事業展開による収益も併せて考えているが、具体的な M & A はあまり大きな投資規模では無い

Q: 成長戦略について、この中計期間中では投資があまり掛からずに利益が 120 億円から 200 億円ぐらいにまで上がるが、ROA は、ほぼ 2 倍になるイメージでいいか。

A: 他の分野での資産効率も関係する。特に、知見ある領域のところだが、メタノールの新規事業も考えており、脱炭素に関連して追加のコストが掛かるので、従来型にプラスアルファで資産が増加する。炭素税やカーボンプレジット等の仕組みによるインセンティブ、メリット、あるいはコストの兼ね合いもあると思うが、資産効率が若干落ちると見ている。バイオケミカルも大きな設備投資が掛かることもあり、全部おしなべると、2 倍まではならない。

**【質問者 2】**

Q: 化学品は分かりにくく、他社でもなかなか議論にならないが、現在外部環境が大きく変化している。この先の話として、何を見れば予見できるのかについて教えてほしい。例えば、アジア圏での生活消費財や合成樹脂の場合、どのようなエリアの消費が盛り上がれば、業績が強くなるか、外部からマクロ指標を見た時に、アメリカのトラックの需要が増えると良い等、何を見ればいいポイントがあれば教えてほしい。

A: 様々なものを総合して見ている。ひとつだけ申し上げると、環境関連が主軸となる。カーボンニュートラルや脱炭素等では、欧州の動向を注視している。これまで当社はトレードの規模は大きくないが、欧州が 1 つのモデルケースになると思っており、先行する欧州での情報を目安としながら、一方で米中の関係を掛け合わせて日本はどちらに動いたらいいいのか、確認している。日本の化学メーカーの目線よりもさらにもう少し先を見ることを心掛け、情報収集を行っている。

- Q: インドの工業塩やレアアースなど長年に渡って取り組まれていると思う。これまでのメタノールを除いた時の収益規模について教えてほしい。新たな取り組みも行うという話もあったが、その具体的な内容と、規模について、当初見えていたものと比べた足元の状況を教えてほしい。
- A: まず工業塩だが、特に規模も申し上げるほどのものでもない。厳しい状況ではあるが、今後については、工業塩の周辺事業を検討している。レアアースについては、昨今、脱炭素、電気自動車化という流れの中、非常に市況が上がっている。市況が上がるにつれて、収益も増え、今期は非常に恵まれた年だった。今後については、ライナス社をパートナーとした新規のレアアース事業について既に候補がある。日本はレアアースの一大マーケットであり、こちらの需要家のニーズに応えるため、新規ソースの開拓から更なる供給ソースの拡充を目指して今協議を進めている。

### 【質問者 3】

- Q: メタノールについて、ソルバディスも含めるとかなり大きいと思うが、石炭やガスの値動きにより、価格が非常に動きがあると思うが、短・中期の需給とメタノール市況の見通しについてどのように見ているか。また、今の KMI の価格とガスの取り決めについて、原料のガス価格が急に上げられるリスクは見なくてもいいのかについて教えてほしい。
- A: メタノール市況の中期的な見通しについて、当社の取り扱い、欧州で約 100 万 t、アジア圏内で 90 万 t から 100 万 t、で全部合わせると、大体 200 万 t。市況の見立てについて、アジア価格は 420 ドル近傍で推移しており、1 番高い時はもっと高かったが、だんだん落ち着き始めている。以前はイラン製のメタノール生産がかなり需要を満たしたが、直近では落ち着いている。次に、来期以降の価格の見立てだが、300 ドル台前半。落ちて 300 ドルを若干切る程度で見ている。2 つ目の質問についてだが、インドネシアのガス価格が急に上がることはない。
- Q: 過去、サウジアラビアで急に公定価格が上がった事例もあったが、今の契約では影響が無いという理解でいいか。
- A: ご了解の通り。
- Q: 米国の C5 事業について、現在、エタンクラッカーが台頭する中で、C5 の調達は今後影響がないか。また、エンジンフードは EV に変わっても石油樹脂が使われるのか。ナイロン、PP、PPS 等色々あると思うが、外部環境の変化に対する考え方をお願いできるか。
- A: ご指摘の通り、C5 留分はだんだん減っているが、当社が調達している大手化学メーカーからは引き続き出てくる。今後、例えば規模を拡大する際、原料確保の点で課題になる可能性は認識している。
- 次の質問について、今後電気自動車や燃料電池車で、軽量化素材を求めらる中で、引き続き選ばれるのかという話と理解するが、メトン樹脂は軽量かつ強度があるところが売りで、これまでアルミなどの金属系の軽量化素材から置き変わってきた。ある程度強度が重要になるが、一般樹脂だとそこまではいかない。比較されるのが、炭素繊維などの複合素材。飛行機も使わ

れているが、コストが高く、軽さを追求して炭素繊維になるとコストも上がる。従って、メトン樹脂、DCP等のC5ポリマーを炭素繊維と掛け合わせ複合素材とすれば、さらに強度が高まり、炭素繊維の量も減らせるのではないかと考えており、開発と検証をしている。

Q: P9で戦略型・提案型という説明をしていたが、どのようにビジネスを変えていくのか。日本の化学メーカーも戦略的に対応しており、商社がどのように更なる提案力を持たせ、ビジネスに結びつけるか教えて欲しい。

A: 端的に言えば、特に先端分野であり、環境、ライフサイエンスの分野だと思う。従来のトレードの形で、「今何が必要で、これを何トン持ってきてくれ」といったトレードに繋がる話のみに留まらず、「事業として、誰を呼んで来て、どのように組み立てて、我々として何が提案できるか」というところを確りと構想できる思考を身に付けるということと考えている。

Q: 日本の化学メーカーがかなり化学事業を縮小する動きになっている。特に川上事業だが、そういう動きをどう見ており、双日のビジネスにどう影響があると考えているのか教えてほしい。

A: 環境・ライフサイエンスの方に向かうと思っている。ご指摘の通り、従来の化学メーカーは10年前のエチレンラッカーの再編も含めて、大型再編が行われてきた。今は、脱炭素の流れに沿った形の動きと理解しており、環境及び今後の社会問題、社会課題としてのライフサイエンスという形の対応で、一般的な化学品の取り扱いあるいは製造等の事業以外の分野を伸ばしていくことになると考えている。化学に関係するところは、リサイクルやサーキュラーエコノミーの部分と考えている。

以上